

令和5年度入学試験問題

国語 (3科目入試)

注 意

1. 合図があるまで表紙をあけないこと。
2. 解答はHBの黒鉛筆もしくはシャープペンシルで解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークすること。
3. 解答用紙に受験番号を正しくマークし、氏名を記入すること。
4. 解答用紙に解答以外のことを書いた場合、その答案は無効とする。
5. 受験票は机上に置いておくこと。
6. 【国語】の問題は1番から40番までとなっており、別に記述問題が1問あります。記述問題の解答は、マークシートではなく記述問題用の解答用紙に解答すること。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

国語

著作権の関係上、公開しておりません。

著作権の関係上、公開しておりません。

著作権の関係上、公開しておりません。

(山内志朗『極限の思想 ドウルーズ 内在性の形而上学』による)

(注1) ドウルーズ——フランスの哲学者。

(注2) フッサール——ドイツの哲学者。

(注3) アリストテレス——古代ギリシアの哲学者。

(注4) ハンナ・アーレント——ドイツ出身の哲学者、思想家。

(注5) トマス・アクイナス——中世ヨーロッパ、イタリアの神学者、哲学者。

(注6) ドウンス・スコトウス——中世ヨーロッパの神学者、哲学者。

(注7) アウグスティヌス——ローマ帝国時代の神学者、哲学者、説教者。

(注8) ヒューム——スコットランドの哲学者。

(注9) 『差異と反復』——ドゥルーズの著作。

(注10) デカルト——フランスの哲学者。

* 問題の作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問1 傍線部「『西洋哲学の基調』とあるが、これはどのような考えか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は1。

- a 新型コロナウイルスや地震や台風といったことに対して、人間が十分制御でき、人間が環境に影響を与えることができるという考え方。
- b 主体と客体、原因と結果などといった二元論で物事を捉えることで、人間が意図通りに環境を一から作り上げてきたという考え方。
- c 外界からもたらされた刺激により知覚や感覚を獲得し、それらをもとに受動的総合を作り上げ、世界を認識しようとする考え方。
- d 本来は多相な事象が生じているのだが、知性や理性によって一つの相に焦点を当て、それらを明晰に輪郭づけようとする考え方。
- e 自然環境を手段として用いる手段目的連関に入ることによって、人間を情念的、感覚的に満ち足りた状態にできるとする考え方。

問2 空欄①～⑤を補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。ただし、同じものを二度以上選んではならない。解答番号は

① — ② — ③ — ④ — ⑤ — ⑥。

a もちろん b つまり c しかしながら d および e そのような

問3 空欄1を補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は7。

a 客観的なもの b 相対的なもの c 一般的なもの d 絶対的なもの e 主観的なもの

問4 傍線部2「主知主義的な流れ」とあるが、これはどのような考え方か。その説明として最も適当なものを、次のa～cのうちから一つ選びなさい。解答番号は **8**。

- a ハンナ・アーレントによって提唱された、合理主義、経験論、ドイツ観念論につながる流れで、観念や概念を中心とする考え方。
- b アリストテレス主義に当たる、観念や概念を基礎とする流れであり、意志は知性に従属するものであるという考え方。
- c ドウルーズ哲学の中心的な位置を占めるものであり、善を求める行為において知性や理性が意志よりも先に立つという考え方。
- d トマス・アクィナスの考え方として分類されるもので、自然本性的に人間は意志により悪を欲することが可能であると考える考え方。
- e フッサールが現象学において主張したもので、受動的総合を能動的総合の土台になるものとして積極的に評価しようとする考え方。

問5 傍線部3「主知主義の流れ」とあるが、これはどのような考え方か。その説明として最も適当なものを、次のa～cのうちから一つ選びなさい。解答番号は **9**。

- a 受動的総合を評価するドウルーズに通じるものであり、哲学的に物事を捉えるのではなく、芸術的に物事を捉えようとする考え方。
- b ドウンス・スコトウスによって中世になって主張されたものであり、知性と意志とは時間的な前後関係を有しないと考える考え方。
- c ハンナ・アーレントによって主知主義と対比的に唱えられたものであり、人間は善よりも悪を欲求するものであると考える考え方。
- d ヒュームの思想に深く浸透しているものであり、膨大な作業が必要であるため、系譜的に探究するだけの価値がないとされる考え方。
- e アウグスティヌスに一つの始まりを有するものであり、理性的、知性的なものよりも意志的なものの方を重視しようとする考え方。

問6 空欄Ⅱを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **10**。

- a 途方に暮れていた はかりごと b 馬脚をあらわしていた c 白黒をつけれなかった
- d 謀を巡らしていた e 理屈をこねていた

問7 傍線部4「その反復を観照する精神」とあるが、これはどのような精神か。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。

解答番号は **11**。

- a その反復を注意深く、正確に繰り返そうとする精神。
- b その反復を他の物事と比較しながら捉えようとする精神。
- c その反復を主観を交えずに冷静に認識しようとする精神。
- d その反復をよく見て、問題を洗い直そうとする精神。
- e その反復を要領よく、コンパクトにまとめようとする精神。

問8 傍線部5「ヒューム革命」とあるが、これはどういうことか。その説明として、最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **12**。

- a いままでデカルトが用いた「観念」という言葉に注目していた哲学が、誰も用いたことのなかった「印象」という言葉に注目するように変化したということ。
- b いままで生氣のない像である「観念」という概念を用いた営みであった哲学が、生氣のある像である「印象」という概念を用いた営みに変化したということ。
- c いままで思考や推論に現れる「観念」を対象としてきた哲学が、われわれの心に現れ、精神を構成するうえで必要とされる「印象」を対象とするように変化したということ。
- d いままで能動的総合をもたらす「観念」に積極的な価値を置いていた哲学が、受動的総合をもたらす「印象」に積極的な価値を置くように変化したということ。
- e いままで対象に何ら影響をもたらさない「観念」に根拠を置いていた哲学が、精神に何らかの影響をもたらす「印象」に根拠を置くように変化したということ。

問9 空欄Ⅲを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は13。

- a 陶冶すべきだった b 薫陶すべきだった c 翻意すべきだった d 喝采すべきだった e 掲示すべきだった

問10 次の二文は、本文中の【1】～【5】のどこに入るか。後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は14。

しかし気づいた人はいなかった。気づいた人がいようがまいが、ここで情念論への近代の入り口が指定されたのは確かだと思う。

- a 【1】 b 【2】 c 【3】 d 【4】 e 【5】

問11 本文の内容と一致するものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は15。

- a 観念の代わりに印象を中心的地位においたヒュームの思想を、ドゥルーズは捉えきれず、評価すべきかどうか思索していた。
b フッサールにとって受動的総合は能動的総合の土台にすぎないが、ドゥルーズにとっては中心的位置を占めるものであった。
c 二十世紀後半以降の西洋哲学は、東洋では昔から思想の基調であった情念や感覚にやっと思目し、東洋に追いつくことになった。
d 「人新世」という用語が流行しているが、ドゥルーズはヒュームの考え方に基づいて、人類の環境破壊を早くから批判していた。
e ドゥルーズは二元論的な枠組みを用いて事象を捉えなかったため、能動的ではなく受動的にしか総合することができなかった。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合で本文の段落に 1 ～ 10 の番号を付してある。

著作権の関係上、公開しておりません。

著作権の関係上、公開しておりません。

著作権の関係上、公開しておりません。

(大黒^{おおくろ} 岳彦「ネットワーク」の感覚配合比率 視覚中心主義の終焉」による)

(注1) デジタルト——部分の寄せ集めではなく、それらの総和以上の体制化された構造、形態のこと。

(注2) フリードリヒ・キットラー——ドイツのメディア評論家。

(注3) ハイデッガー——ドイツの哲学者。

* 問題の作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問1 傍線部1「トロント学派メディア論」とあるが、これはどのような考え方か。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **16**。

a 主導メディアの種類によって区分された〈メディア〉パラダイムは、〈声〉↓〈手書き〉文字↓〈活字〉↓〈電気テレビ〉へと、時代とともに進化を遂げていくという考え方。

b 人間や社会の枠組みはメディア技術によって決定されるため、どのメディア技術を利用するのかという選択を社会全体で議論した上で決定しなければならぬという考え方。

c 〈メディア〉パラダイムは時代とともにさまざまなものが登場してきたが、歴史を通じて〈活字〉パラダイムが人間にとって主導的な機能を果たしてきたという考え方。

d 各時代の主導メディアにより、〈認識Ⅱ存在〉関係を決定することに大切な役割を果たす感覚配合比率が異なり、感覚体験の質も変わってしまうという考え方。

e 〈声〉パラダイム、〈手書き〉文字、パラダイム、〈活字〉パラダイム、〈電気テレビ〉パラダイムのうち一つだけが各時代に使われ、他は淘汰されていったという考え方。

問2 空欄Iを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **17**。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| a 主客転倒した概念 | b 付和雷同した概念 | c 取捨選択した概念 |
| d 換骨奪胎した概念 | e 我田引水した概念 | |

問3 傍線部2「〈活字〉パラダイム」とあるが、これはどのようなものであるのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **18**。

a 〈活字〉パラダイムは、五〈官・感〉の対象すべてを視覚の中で再現、構成することによって、視覚強調的なものから主観的な認識へと向かっていくものである。

b 〈活字〉パラダイムは、客体としての対象を主体としての人間から分離するもので、〈截断〉ないし〈疎隔〉を特徴とし、分析的精神を徐々に養育するものである。

c 〈活字〉パラダイムは、「見ること」を中心に据えている視覚を他の感覚よりも突出させており、視覚を他の作用と同時に作用させることのない排他的なものである。

d 〈活字〉パラダイムは、首尾一貫した論理に基づき開かれた作品世界をつくることによって、共同体主義的ではなく、個人主義的な世界を構築していくものである。

e 〈活字〉パラダイムは、見られる対象と見る主体との間に制り込んで入る対象の「代理物」である〈表象〉に基づくものであり、普遍的な認識方法となるものである。

問4 二重傍線部i、iiのここでの意味として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つずつ選びなさい。解答番号は i **19**、ii **20**。

i 揚げ足取り

a つじつまが合わない、的外れな批判をすること

b 浅はかで皮相な見解を相手におつけること

c 気後れせずに、ずうずうしい態度を取ること

d 相手の言い損ないや言葉尻を捉えてなじること

e 相手のことを気にせず大胆に批判すること

ii 卓拔な表現

a 並外れていて理解が難しい表現

b 端的に要点をまとめた表現

c 微妙な意味合いをうまく表した表現

d 普通とは違った訝しい表現

e 際立って優れている表現

問5 空欄Ⅱを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **21**。

- a 原理的 b 暫定的 c 普遍的 d 有機的 e 概念的

問6 空欄Ⅲを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **22**。

- a 一脈相通じた b お墨付きを与えた c 引導を渡した
d 胸襟を開いた e 矛先を転じた

問7 傍線部3「触覚主義」とあるが、その説明として最も適当なものを、次のa～cのうちから一つ選びなさい。解答番号は **23**。

- a 触覚主義は、マクルーハンたちのトロント学派だけではなく、西洋においても日本においても、復権の試みが行われていた。
b 触覚主義は、共同体原理を反近代的な個人主義によって超越しようとする考えの下で掲げられた政治的に偏ったものである。
c 触覚主義は、マクルーハンが先駆的に掲げたものであり、その後、さまざまな考えを持った人たちが追随することになった。
d 触覚主義は、〈近世〉メディアをうまく利用しながら、白らの考えを復権させようとするしたたかな戦略をとるものであった。
e 触覚主義は、テレビを主導とする〈電気〉パラダイムにおいて、地球規模の共同体を出現させて、復権することになった。

問8 空欄Ⅳを補うのに最も適当なものを、次のa～cのうちから一つ選びなさい。解答番号は **24**。

- a 原理原則のイデオロギ― b 融通無碍のイデオロギ― c 浅学非才のイデオロギ―
d 杓子定規のイデオロギ― e 同上異曲のイデオロギ―

問9 本文を大きく三つに分けるとすると、**2**、**10**のうちのどこで区切るのが適当か。二つ目の先頭と、三つ目の先頭の番号の組み合わせとして最も適当なものを、次のa～cのうちから一つ選びなさい。解答番号は **25**。

- a **4**・**7** b **4**・**8** c **5**・**8**
d **5**・**9** e **6**・**9**

問10

次の①～⑤のうち、筆者の考え方にあてはまるものにはa、あてはまらないものにはbをマークしなさい。解答番号は ①―26、②―27、③―28、④―29、⑤―30。

① プロテスタントの教義を信仰していたマクルーハンは、カトリシズムの信条を立論のバックボーンとしていたトロント派の中では異質な存在であったが、晩年になって改宗することになった。

② 〈活字〉パラダイムは、一六世紀にペトルス・ラムスが行った印刷教科書を使用した教育改革をきっかけにして近現代を支配してきたが、マクルーハンはそれを好ましく思っていなかった。

③ マクルーハンは、〈電気〉パラダイムによって、〈声〉パラダイムの復活の兆しを見るとともに、〈声〉パラダイムにおける村落共同体の規模を越えて地球大の共同体が生まれると予想した。

④ 感覚配合比率は、アリストテレス・トマススの「共通感覚」をマクルーハンが解釈し直したものが、その背景には、絶対化している〈声〉のパラダイムを相対化したいという思いがあった。

⑤ 〈声〉パラダイムにおいても視覚が重要な要素としてあるので、〈活字〉パラダイムを「視覚中心」と特徴付けることは間違いであると、マクルーハンを含めたトロント派は考えていた。

問11

本文でマクルーハンは「〈活字〉パラダイム」と対置させて「〈声〉パラダイム」を理想化しているが、「〈声〉パラダイム」をどのようなものだと考えているのか。本文中の語句を用いて、一〇〇字（句読点なども字数に含む）以内で説明せよ。

※解答は記述問題用の解答用紙に記入しなさい（マークシートには記入しないこと）。

問1 次の漢字の画数として正しいものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **31**。

- 絡
a 十画 b 十一画 c 十二画 d 十三画 e 十四画

問2 熟語の表記が三つとも正しいものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **32**。

- a 厄日ー服喪ー詮慮
b 刻服ー怒気ー頻発
c 躍如ー類比ー節装
d 起業ー粹人ー篤実
e 暗礁ー確策ー稼働

問3 次の文の、カタカナ部分の傍線部と同じ漢字を書くものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **33**。

窓ガラスがコッパ微塵に砕け散る。

- a 新たな問題がハセイする。
b ハスウを切り捨てて。
c 状況をハアクする。
d 円安のヨハを受ける。
e ハメを外して騒ぐ。

問4 次の四字熟語の空欄に使われている漢字の組み合わせとして正しいものを、後のa～cのうちから一つ選びなさい。解答番号は **34**。

巧言□色 □状酌量 — 金科玉□ — 偕老同□ — 好□剋来

a 礼—乗—条—結—期

b 礼—情—状—穴—期

c 礼—乗—条—穴—機

d 令—情—条—穴—機

e 令—情—状—結—機

問5 傍線部の慣用句の使い方が正しくないものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **35**。

a そんなことをすれば、生を棒に振ることになるぞ。

b 緊張感を欠いている選手にくさびを打ち込んだ。

c 指をくわえて同僚の昇進をみている。

d 神輿を担いで会長に祭り上げる。

e 完膚なきまで相手をやっつける。

問6 慣用句とその意味の組み合わせとして正しくないものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **36**。

a 大見得を切る……自信のほどを大げさな言動で示す。

b 話の腰を折る……話を途中でやめてしまう。

c とうが立つ……盛りが過ぎる。

d 手玉に取る……人を思い通りに操る。

e 人後に落ちない……他人に引けを取らない。

問7 次の五つの熟語の反対語を1～10のうちから選ぶとき、正しいものがすべて含まれている組み合わせを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **37**。

「躊躇」 「恥辱」 「不足」 「回避」 「陳腐」

1 超過 2 穩当 3 決断 4 直面 5 活発 6 名誉 7 清楚 8 該当 9 斬新 10 拡充

a 1、3、5、4、8

b 2、3、4、6、9

c 1、2、7、8、9

d 2、4、5、7、10

e 1、3、4、6、9

問8 次のカタカナ語の意味を、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **38**。
「レトリック」

a 神秘学 b 形而上学 c 修辞学 d 審美学 e 人文学

問9 井伏鱒二の作品を、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **39**。

a 新生 b 阿部一族 c 山椒魚 d 冬の蠅 e 日輪

問10 1909年に青森県で生まれ、無頼派宣言を行い、小説「斜陽」や『グッド・バイ』などを発表したのは誰か。次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **40**。

a 太宰治 b 井上靖 c 大岡昇平 d 川端康成 e 佐藤春夫